

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2023年度	開講キャンパス		開講キャンパス	開設学科		食品開発科学科				
科目名称		薬理学					授業形態		講義			
科目コード		278700	単位数		2単位	配当学年		3	実務経験教員		○	
担当教員名		山田 光子									ICT活用	○
授業概要		<p>本科目の目的は、医薬品の適切な利用を判断する能力を養うことです。医薬品は、使用量や使用方法を誤ると健康を害することがあります。医薬品とその利用に関する知識を身に付けるよう、医薬品の基礎、医薬品と生体とのかかわりを解説します。健康食品管理士としての活動経験をもとに、薬効に影響をおよぼす食品・健康食品の摂取について解析します。学校薬剤師の経験をもとに、薬物乱用等の諸問題について現状と課題を概説します。治療薬とそのメカニズムの講義では、主な疾患について疾患ごとに薬物療法を解説します。</p>										
関連する科目		「生理学」と「健康食品概論」を履修済みであることが望ましい。本科目と同時期に開講される「食品のための臨床検査学」を履修することが望ましい。										
授業の方法と進め方		テキストと配付資料を用いて講義します。授業中に発言、発表を求めることがあります。小テスト（予習テスト、復習テスト）を実施することがあります。毎回課題を出します。課題の提出およびフィードバックはユニバのクラスプロファイル上で行います。										
授業計画【第1回】		医薬品の基礎(1)：医薬品の概念と種類、処方と調剤、日本薬局方										
授業計画【第2回】		医薬品の基礎(2)：医薬品の有効性・安全性、新薬の開発、ジェネリック医薬品										
授業計画【第3回】		医薬品と生体とのかかわり(1)：医薬品による有害反応、薬効に影響を与える生体要因										
授業計画【第4回】		医薬品と生体とのかかわり(2)：薬力学と薬物動態学、投与経路										
授業計画【第5回】		医薬品と生体とのかかわり(3)：薬物相互作用										
授業計画【第6回】		医薬品と生体とのかかわり(4)：薬効に影響をおよぼす食品成分										
授業計画【第7回】		医薬品や薬物にまつわる諸問題(1)：薬害、急性薬物中毒										
授業計画【第8回】		医薬品や薬物にまつわる諸問題(2)：薬物乱用、危険ドラッグ、ドーピング										
授業計画【第9回】		治療薬とそのメカニズム(1)：降圧薬、脂質異常症治療薬										
授業計画【第10回】		治療薬とそのメカニズム(2)：糖尿病治療薬										
授業計画【第11回】		治療薬とそのメカニズム(3)：痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬										

授業計画 【第12回】	治療薬とそのメカニズム(4) : 抗炎症薬
授業計画 【第13回】	治療薬とそのメカニズム(5) : 抗菌薬、抗ウイルス薬
授業計画 【第14回】	治療薬とそのメカニズム(6) : 催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬
授業計画 【第15回】	治療薬とそのメカニズム(7) : 消化性潰瘍治療薬
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品に関する知識、医薬品と生体とのかかわりに関する知識を身に付け、医薬品の適切な利用を説明できるようになる。 2. 薬効に影響をおよぼす食品成分に関する知識を身に付け、食品や健康食品の摂取のあり方を説明できるようになる。 3. 疾患の治療薬とそのメカニズムを理解している。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	テキストと配付資料を見て授業内容をおおまかに把握しておく。(1時間程度)
授業時間外の学習 【復習】	授業を振り返りながら課題を解く。授業中に取ったメモを整理し、ポイントをノートにまとめる。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	課題、小テストは、コメントを付けてあるいは採点して返却し、必要に応じて授業中に解説します。 定期試験の実施後には解説を行います。
評価方法・基準	定期試験：70点、課題・小テスト等：30点
テキスト	薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム 第3版 (中原保裕著、学研メディカル秀潤社)
参考書	治療薬ハンドブック (高久史磨監修、じほう) 新薬理学 (安原一監修、日本医事新報社)
備考	健康食品管理士認定試験の受験資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があります。